

ひろしま版ネウボラの取組状況について

1 要旨・目的

子育てに関する不安や負担を軽減し、子供を希望する人が安心して妊娠・出産・子育てできる環境整備に向けて、子供と家庭に関する切れ目ない支援の仕組みである「ひろしま版ネウボラ」の構築に向けた取組を進めており、令和4年度の取組の評価検証結果を報告する。

2 現状・背景

- 令和5年度における「ひろしま版ネウボラ」の実施市町は17市町で、令和6年度からは大竹市が加わり、18市町となる予定であり、令和11年度までに全市町で実施されることを目指している。
- 「ひろしま版ネウボラ」の全県展開にあたっては、その機能や価値を市町や県民に浸透させるとともに、取組の評価検証を実施し、市町における取組の改善・強化につなげる必要がある。
- 令和5年度から、「ひろしま版ネウボラ」が提供する価値について県民の認知・理解の促進を図るとともに、相談員がその価値を意識してサービスを提供することを目的として、戦略的PRモデル事業をモデル3市町において実施している。

3 概要

(1) 対象者

県内市町、県民（主に就学前の子供を育てる保護者）

(2) 取組内容

「ひろしま版ネウボラ」の取組が「子育てに対する安心感の醸成」につながっているかを検証し、市町における取組の改善・強化につなげるため、令和3年度から重点的に実施している取組ごとに指標を設定し、市町からデータを収集し、モニタリングを行っている。（下記（5）参照）

(3) スケジュール

—

(4) 予算（令和5年度）

143,722千円

(5) 事業効果・検証結果の主なもの（令和4年度）

ア 完全な全数把握（アプローチ率100%）の実施

【指標】面談対象者のうち、状況を把握することができた人数の割合（令和5年6月末現在）

コンタクトタイミング	令和4年度	
	全数把握率	(参考) 自主的面談参加率
母子手帳交付	100%	99.4%
乳児家庭全戸訪問	99.96%	94.6%
乳児前期健診（4か月頃）	99.95%	91.7%
1歳6か月児健診	99.91%	88.9%
3歳児健診	99.69%	87.0%

【結果】市町職員の働きかけ（個別のアプローチ）などにより、5回全てのコンタクトタイミングにおいて99%の状況把握ができています。

イ 関係機関との連携

【指標】定期面談時にリスク有となった家庭のうち事前に関係機関から情報提供を受けていた家庭の割合

令和4年度	県平均	24.0%
(参考) 令和3年度	県平均	19.5%

【結果】関係機関との連携率は自治体ごとに様々であるが、県平均は、昨年度から4.5pt上昇している。

ウ 担当者明示～担当者による継続した面談

【指標】自身の担当者を認識している者の割合

令和4年度	三次市・海田町・世羅町の平均	62.0%
	その他の市町の平均	45.2%
(参考) 令和3年度	三次市・海田町・世羅町の平均	69.4%
	その他の市町の平均	52.2%

【結果】同じ担当者が継続して面談している三次市・海田町・世羅町では、他の市町より担当者を認識している割合が高いが、昨年度から7.4pt減少している。

エ 面談時期の新設

【指標】新設面談の次の面談時における子育て家庭の安心感の高さ

	実施前	実施後
妊娠後期面談時の安心感スコア（府中市）	4.11	4.42
乳児後期面談時の安心感スコア（廿日市市）	4.15	4.19

※面談新設前後のデータを比較するため、令和3年度におけるデータと連結して集計。

【結果】いずれの面談も安心感スコアが上昇したが、妊娠後期面談の方が上昇が大きい。

(6) 今後の対応

- 検証結果をネウボラ実施市町と共有し、市町におけるネウボラ業務の改善・強化を図る。
- 「ひろしま版ネウボラ」基本型の更なるブラッシュアップに向け、ネウボラ実施市町の協力のもと、引き続き評価検証を行うとともに、人材育成研修も継続して行う。
- 戦略的PRモデル事業のモデル市町において、引き続きブランディング、PRに取り組み、来所の促進や認知向上を図る。
- 全県展開に向け、「ひろしま版ネウボラ」の取組の成果を見える化した上で、未実施の市町に対して対話と伴走型支援を行っていく。